

最新トピックス情報入力用紙

日時・場所	平成28年10月 7日(金) 熊本県北部浄化センター内駐車場にて
トピックス題名	エアハート工法現場説明会
トピックス内容	<p>熊本県の協力のもと、浄化センター内の敷地をお借りして、デモ施工を開催しました。熊本県、熊本市、宇土市、益城町、嘉島町の技術の方を含め40名以上もお集まりになっていただき、改めて関心の高さを実感しました。</p>  <p>服部会長理事挨拶</p>  <p>池田社長（特許権者）による開発経緯と製品概要説明</p>  <p>吉田技術部長による製品説明状況</p> <p>会が終了後も、数々の質問が寄せられ、関心の高さを感じ取ることができました。</p>

デモ施工を見学する自治体職員



圧縮空気(コンプレッサ)

下水道管路の早期復旧に

エアハート工法協会

簡易水替システム(エアハート工法)のデモンストラレーション施工が7日、熊本北部浄化センターであった。県、熊本市、益城町、嘉島町、宇土市の技術職員など約40人が参加。下水道管路の災害復旧工事発注を前に、最新の技術を学んだ。

簡易水替システムでデモ施工

しを動力源とするため、呼び水が不要で空運転が可能。回転が無く絡まない。設置・撤去が早い。工事箇所のみ水替可能などの優れた特長がある。管路復旧の課題に対応できるように注目され、福岡県須賀川市の災害復旧工事などで実績を挙げている。特許を取得し、年内のNETIS登録を予定しているという。

同工法は、東日本大震災で被害を受けた下水道管路を復旧する際、水替工を効率的・効果的に実施できる技術として、福岡県いわき市の建設業者らで組織するエアハート工法協会(事務局・みちのくNテックス)が開発した。

デモ施工には、エアハート工法協会の服部幸吉会長、理事、猪狩友巳事務局長、特許権者の池田進理事らが福岡県から来席。服部会長理事は「誰でも簡単に操作でき、工期短縮にも繋がる。震災経験者として、熊本の早期の復旧復興に少しでも力になりたい」と話す。熊本地震による下水道管の損傷は深刻で、スレやたわみなどの被災延長は熊本市や益城町、嘉島町など83・4キロ(国交省まとめ)に及んでいる。災害復旧は原形復旧が原則で、供用しながらの開削工事がメイン。今後、復旧工事が一斉に発注され進む中、震災から生じた工法が解決策の一つとなりそうだ。